



企画展

救いの みほとけ — お地藏さまの美術 —

上：地藏来迎図 日本・鎌倉時代 14世紀
下：重要文化財 地藏菩薩立像 日本・平安時代 久安3年（1147）
いずれも根津美術館蔵

Museum Collection Exhibition
**Bodhisattva
of Salvation:
The Art of Jizō**



親しみを込めて“お地藏さま”とよばれる地藏菩薩は、おそらく日本人の誰もが知るほとけでしょう。しかし、日本で最初に仏教が興隆した飛鳥時代から奈良時代には、まだあまり信仰されていませんでした。そのためこれらの時代の地藏信仰の遺物は、写経を除くとほぼ残されていません。しかし平安時代になると、地藏は徐々に尊ばれるようになり、さらに平安後期に入って衆生を救う救済のほとけとしての信仰が確立して以降は、地域や時代を超えて崇められ、その信仰の発展とともに、数々の仏画や仏像が作られました。

根津美術館のコレクションには、その基礎を築いた初代根津嘉一郎（1860～1940）が無神論的思想の広がりやを憂いて、晩年に仏教思想の教導のため無宗派寺院の建立を目指したこともあり、仏画や仏像をはじめとする仏教美術が数多く所蔵されています。とりわけ地藏菩薩にかかわる収蔵品は豊富で、なかには重要文化財や重要美術品に指定されている優品もあります。

本展では、館蔵の仏画や仏像を中心として、日本における地藏信仰の歴史とその広がりを概観します。この展覧会が、地藏菩薩にかかわる美術の華麗で多様な世界を知る機会となれば幸いです。

2023年 5月27日^土～7月2日^日 日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZUMUSEUM

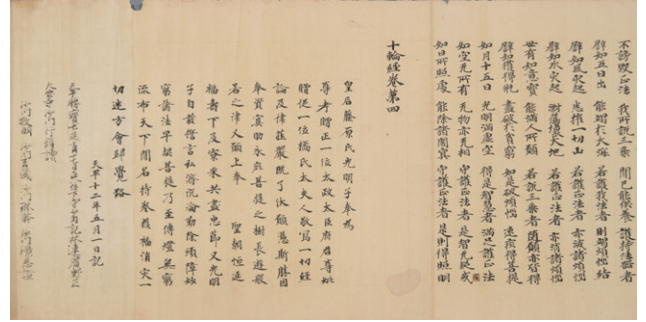




初公開

じぞうぼさつず
地蔵菩薩図
1 幅 絹本着色
日本・鎌倉時代 14 世紀
根津美術館蔵

左手に宝珠、右手に錫杖を執る地蔵菩薩が、衆生を救済するため白雲に乗って下界へ向かうさまを表す。このような姿の地蔵像は、鎌倉時代以降数多く制作された。本作は奈良国立博物館所蔵のものと細部までポーズが一致しており、一定の信仰を集めた像容の可能性がある。



だいほうこうじゅうりんきょう
大方広十輪經 卷第四（五月一日經）（部分）
1 巻 紙本墨書
日本・奈良時代 8 世紀
根津美術館蔵

聖武天皇の後、光明皇后が亡き両親追福のために発願した一切經のうちの一巻。願文に「天平十二年五月一日」とあることから、五月一日經と呼ばれる。奈良時代の地蔵信仰に関わる数少ない写経遺例として貴重である。



重要文化財
じぞうぼさつりゅうぞう
地蔵菩薩立像
1 軀 木造着色
日本・平安時代 久安3年（1147）
根津美術館蔵

像内の墨書銘から、久安3年（1147）に源良兼ら^{みなもと の よしかね}を願主として、仏師僧快助^{かいじよ}によって造立されたことが知られる、在銘の地蔵菩薩像としては最古の遺例。その顔立ちや体軀はいかにも平安後期らしい穏和さを見せている。



重要美術品
やたじぞうえんぎ えまき
矢田地蔵縁起絵巻（部分）
1 巻 紙本着色
日本・室町時代 16 世紀
根津美術館蔵

毎月決まった日に奈良・金剛山寺（通称矢田寺）に参詣し地蔵菩薩に祈願すると、その功德によって地獄での責め苦から救済されるという霊験を図示した絵巻。12月24日に参詣し祈願すれば、極楽への往生が決定されると説く。



しゃ か じ ぞうらいごうず
釈迦地蔵来迎図
1 幅 絹本着色
日本・鎌倉時代 14 世紀
横浜市・寶生寺蔵

雲上に立つ釈迦如来と、それに従う地蔵菩薩を描く。經典に基づかない非常に珍しい図様で、釈迦と弥勒を同一視し、さらに弥勒が住む兜率天への往生を地蔵が導くと説いた、興福寺出身の僧貞慶の信仰が反映されている可能性がある。



じぞう ぼ さつず
地蔵菩薩図
1 幅 絹本着色
朝鮮・高麗時代 14 世紀
根津美術館蔵

高麗の地蔵菩薩図のなかでも保存状態が良好な作例で、着衣の細やかな彩色や、金泥による華麗な文様表現が美しい。頭部に布を被る地蔵菩薩の姿は西域に源流を持ち、高麗時代に非常に流行した図様である。



初公開
じごくじゅうおうず しんこうおうず
地獄十王図（秦広王図）
10 幅のうち 1 幅 絹本着色
日本・室町時代 15 世紀
根津美術館蔵

地蔵菩薩と十王を 1 尊ずつ全 11 幅で描いた大作で、現在 10 幅が伝わる。このうち秦広王図は、初七日に罪業の審判を行う様子を描いたもので、背後の衝立に描かれた山水表現などから、当代一流のやまと絵師が描いた可能性が高い。

展示室 5 西田コレクション受贈記念Ⅲ 阿蘭陀・安南 etc.

当館顧問・西田宏子より陶磁器など工芸品 169 件を受贈。その中の優品を 3 回に分けてお披露目するシリーズ、最後の第 3 回は可愛らしい阿蘭陀や安南です。



あい え かちようもんぢゃき
藍絵花鳥文茶器
1 口
オランダ 17 世紀
根津美術館蔵 西田宏子寄贈

日本からの注文によって、オランダで作られたデルフト陶器。鮮やかな青で、可愛らしい鳥 1 羽と大振りの花 2 つが描かれている。

展示室 6 涼一味の茶

梅雨を迎え、蒸し暑いこの季節、茶の湯では道具に工夫を凝らすことで、清々しさを演出します。涼感をもたらす季節の茶道具約 20 件を取り合わせます。



みしまちやわん うえだごよみで
三島茶碗 銘 上田曆手
1 口
朝鮮・朝鮮時代 16 世紀
根津美術館蔵

口縁がきりと外側に反り、端正な姿をした浅めの茶碗。点を連ねたこのような文様は、曆に似ていることから「曆手」と称される。

同時開催展

開催概要

展覧会名	企画展「 ^{すく} 救いのみほとけ— ^{じ ぞう} お地蔵さまの ^{び じゅつ} 美術—」
	日時指定予約制 ご来館前に当館ホームページでの日時指定入館券の購入にご協力ください。 (招待はがき等をお持ちで入館料無料の方もご予約ください。)
主催	根津美術館
開催期間	2023年5月27日〔土〕～7月2日〔日〕
開館時間	午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
休館日	毎週月曜日
入館料	オンライン日時指定予約 一般 1300円(1100円) 学生 1000円(800円) ・()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。 ・当日券(一般1400円)も販売しております。 (ご予約の方を優先してご案内いたしますので、当日券の方は少々お待ちいただくことがあります。 混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。) ・2023年5月23日〔火〕より当館ホームページで予約を受け付けます。 ・ご予約は1グループ10名までとさせていただきます。
アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、 B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレーター)より徒歩10分
住所	〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
お問合せ	Tel. 03-3400-2536 (代表) website https://www.nezu-muse.or.jp
広報・取材のお問合せ	学芸部 広報課 所／村岡 Tel. 03-3400-2538 (直通) e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、どうぞお知らせください。
プレスリリースと画像申請書は、当館ウェブサイトの「プレス関係の方へ」からダウンロードも可能です。

次回展

企画展「物語る絵画」
2023年7月15日〔土〕～8月20日〔日〕



文章と絵による絵巻物や画帖、ひとつあるいは複数の場面で構成された掛け軸や屏風絵など、物語を絵画化した多様な作品を紹介します。

左: 蟬丸縁起(部分) 日本・室町時代 16世紀
右: 源氏物語画帖 伝土佐光起筆 日本・江戸時代 17世紀
いずれも根津美術館蔵

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2023.3.)